

Q&A 10問10答

- Q1** 自分の性格をひと言で言い表すと？
細かいことは気にしない、鈍感なタイプ。
- Q2** 弱点を1つ教えてください。
細かいことがルーズになりがち。
- Q3** 最近うれしかったことは？
長女が医学部に合格したこと。
- Q4** 今はまっているものはありますか？
スポーツジムで水泳をすること。
- Q5** タイムマシンがあったら行きたいのは過去？ 未来？
未来。20年後の経営を先読みしてみたい。
- Q6** 人生で最も影響を受けた人は？
大学院で共に研究に携わった1つ上の先輩
- Q7** 日課はありますか？
就寝前に少しだけスコッチウイスキーをたしなむ。
- Q8** 人生最後に食べたいものは？
カレーライス
- Q9** 今一番会いたい人は誰ですか？
高校の同級生
- Q10** 病院トップとしてふさわしい素質は？
患者さんと職員の幸せを第一に考え、利益を追求しすぎない。

● 社会医療法人中央会尼崎中央病院

急性期医療から介護まで シームレス・ケアを展開



1951年に兵庫県尼崎に開院。309床（一般183床・HCU6床・回復期リハビリテーション45床・地域包括ケア27床・医療療養48床）、24診療科を有すケアミックス病院。介護部門では、介護老人保健施設、通所介護、訪問看護・介護事業所、居宅介護支援事業所など、13の介護施設・事業所を運営し、シームレス・ケアを実践。

今後も10年先、20年先を見据え、次の世代のためにも強い組織づくりに努める所存です。

さらに、健康経営の観点から18年には「尼崎中央病院健康保険組合」を設立。特定健診・特定保健指導などを通じて当法人の職員とその家族の健康を一括で管理し、健康促進を推奨しています。

このように職員が健康で職務へのモチベーションを継続できる環境を整えることで、質の高い医療サービスから患者満足度の向上が期待できます。

急性期に比重を置いたケアミックスで差別化



PROFILE

よしだ・じゅんいち ● 1995年、近畿大学医学部卒業後、大阪大学第一内科学教室入局。大阪労災病院、国立大阪病院、赤穂中央病院などに勤務。2006年、尼崎中央病院に循環器内科医長として入職。09年、同院副院長に就任。17年より現職。

——高度急性期から在宅に至る幅広い領域に携わり、長年にわたって地域医療に貢献しています。

吉田 1951年に祖父が当院の前身である「潮江病院」を開院しました。当初は34床の小さな病院でしたが、70余年の長い歳月のなかで、地域の医療ニーズを見据えながら規模や機能を見直し、変化を重ねていきました。

かつての尼崎市は下町のイメージの強いエリアでしたが、平成に入った頃からJ R 尼崎駅周辺の再開発が進み、街並みや人の流れが

大きく変わりました。当院は、この再開発を機に病院を建て替えて院内に介護老人保健施設を併設するなど、介護事業にも力を注ぐようになりました。

近年、多くの地域では人口の減少・流出が懸念されていますが、尼崎市の人口は微増傾向にあり、J R 尼崎駅前という当院の立地は集患においても有効と言えるでしょう。

当院は現在、許可病床309床・24診療科を有すケアミックス病院として、高度急性期・急性期

をしています。

今後はこうした「急性期寄り」のケアミックス病院が、時代が求める医療のカタチになるのではないのでしょうか。

——早期から「働き方改革」に着手し、職員の定着とスキルアップに尽力されています。

吉田 安定経営を継続させていくためには、やはり人材の確保・育成がキモとなります。

現在、当法人には医療・介護部門合わせて、常勤約1000人、非常勤約300人の職員が所属しています。当法人では、08年頃から働きやすい職場環境を整備するなど、職員の離職防止に向けた取り組みに着手しました。当院もかつて看護師の離職率の

から回復期、慢性期に至る幅広い医療に携わっています。また、退院後の患者さんの支援を担う介護部門では、介護老人保健施設や通所介護、訪問看護・介護事業所、居宅介護支援事業所など、13の介護施設・事業所を運営しています。法人内の各部門が連携しながら医療・介護のシームレス・ケアを実践し、地域包括ケアシステムの一翼を担っていくことも地域における使命だと考えています。

——ハード・ソフトの両面におい

高さに頭を抱えた時期がありましたが、看護部長を中心に看護師一人ひとりと面談し、ライフスタイルに応じた雇用スタイルを模索しながら地道に改革を進めた結果、昨年は看護師の平均残業時間を2・5時間に留めることができました。こうした「働きやすさ」に加え、「J R 尼崎駅前」という通勤しやすい立地条件も整っていることから、看護師の求人に関しては業者を介さなくても優秀な人材が集まる「看護師のマグネットホスピタル」へと変貌したのです。

また、看護師以外の職種も同様に働き方改革を進め、主任クラス以上の管理職のスキルアップを促す教育体制や、女性職員が産休・育休から復帰しやすいサポート体制の強化も図りました。

で、医療提供体制の充足が図られています。

吉田 祖父、父からのバトンを引き継ぎ、2017年に理事長に就任しましたが、当院の経営には09年に副院長に就任して以来かわり続けています。その頃から地域の高齢化の進展を鑑み、ケアミックス病院にシフトチェンジさせる構想を描いていました。

当院は一般、HCU、回復期リハビリテーション、地域包括ケア、医療療養の5病棟で構成されています。一般的にケアミックス病院